

わかば

主な記事

新年の主張／ワンポイントクリニック「お薬のはなし」／或る外科医の一代記「大学医学部の頃②」
話の道草「修理」／病院外来ギャラリー紹介／わかば編集だより

「ときのわすれもの」～住むまちの風景～

タイトル『湘南海岸公園 海風のテラス』



初冬の晴れた日、湘南海岸公園「海風のテラス」に立つと、東に江の島、西に伊豆半島から富士山、海にはたくさんのサーファー、漁船が見えて、気持ちの良い時間が流れます。1985年策定の「湘南なぎさプラン」で、県は湘南海岸公園を人々の憩いの場であるとともに、砂防、防災施設として「海風のテラス」を作りました。テラスの上で振り返り、松やトベラが植えられた砂山の先の134号線を見ると、立っている場所が、市民を守る大切な場所なのかなあ、と気づきます。（作者 涌井 健／企画 宮原青子）

特定医療法人社団若林会

● 基本理念

地域の人々とともに歩み健康を守り
良質な医療と介護を提供します

● 基本方針

いつでも受けられる医療と介護
包括的な医療と介護

地域に出る医療と介護
納得すく医療と介護

◆ 湘南わかばグループ

湘南中央病院 / 介護老人保健施設 湘南わかば苑 / わかば訪問看護ステーション
若林会居宅介護支援事業所 / 藤沢市明治いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）



新年おめでとうございます 本年も宜しくお願い申し上げます

新年の主張

「オミクロン株」と「コロナ後の病院」

医療法人社団若林会 理事長 長田博昭

コロナ情勢

皆様にはコロナパンデミックの向かう先を案じ、不安と共に新年をお迎えの事と存じます。事実2021年11月に入って、コロナ患者が激減した処へ、南アフリカからオミクロン株が出現し、12月から新年の様相は（本文執筆時）正に予断を許さない状況になりました。もしかすると正月はまたしても緊急事態宣言下になって居るかも知れません。

当院では、第5波の病床窮迫の中で県の懸命の要請に対して、地域の医療機関として応じてまいりました。

コロナワクチン第3回目接種

さてコロナに対する守りの武器代表であるワクチンに関して、感染を防ぐ効果よりも重症化を防ぐ効果の方が評価されています。しかし第5波のピークアウト以後、急速に感染者を減らした事は皆様ご記憶に新しい事と思います。丁度日本でワクチン接種が加速し、第2回目が人口の75%を過ぎる時期に一致したので、抗体価が高い状態の人が圧倒的に多かった状態が幸いした可能性は否定はできないでしょう。尤も、コロナウイルスが弱毒化した可能性なども指摘されてはいました。幾つか理由は考えられるのに、「専門家」がテレビなどで、なぜ患者数が急速に減少したのか「分らない、不思議です。」などと口々に言っていたのが不思議に思われたものです。

処が、ワクチン接種先進国での再度の感染蔓延の事実と共に、ワクチンが産生する抗体の量が、2回目接種後4ヶ月から6ヶ月すると減少し始める事が解りました。そこで第3回目の接種が必要であると認識され、世界的に接種が開始されています。この点藤沢市は、12月から医療職に接種を開始、1月下旬ごろから一般市民の皆様にも打ち始め、2、3月中全力で、という態勢です。当院も12月末から自院職員に第3回目のワクチン接種を開始している筈です。

新年1月末からはかかりつけの皆様にも接種できる態勢をとります。オミクロン株にも現有ワクチンが有効かどうかは重大な問題ですが、12月中旬に入って、ファイザー社が同社製のワクチン3回目の接種後には、オミクロン株が細胞に侵入するのを阻む抗体の量が2回接種後に比べ25倍に増加したと発表しました。本当とすれば大いに期待できますね。いずれにせよ、ワクチンに加え有効薬の開発・認可もあるので、感染そのものは継続するとしても重症化は防げるでしょう。そうすればインフルエンザと同様の位置付けとなり、コロナ「禍」は克服される事になると期待しています。

コロナ後の病院

医療現場がコロナ禍下の2年間の凍結状態を経たまま迎えたこの新年に当たり、私たちはここで「コロナ後の病院」をも考えなければなりません。

第一に、コロナ直前に大きかった病床数削減の呼び声（政府の掛け声）の動向です。我が国では、病床総数は OECD 各国平均に比し格段に多いのは事実です。政府は 5 年位前から病床削減を叫び、その矢面に立たされた公立病院は、コロナ禍で声高に語られた病床不足を根拠に、その政策の見直しを叫んでいます。

一方、病院の 8 割が私立である日本で、私立病院の経営は苦しく、これまでの病院間競争での生き残り方式は限界にきました。私は日本の病院が過分散状況にあることを指摘して来ました。おらが町にも総合病院、おらが村にも・・との需要に応じ、病院が増えました。そんな状態で個々の私立病院が軒並み均等に病床を削減するとすれば直ちに各病院の経営に響きますからそれは不可能です。

そしてその問題は、第二のポイントに関連して来ます。それは個々の病院の経営に関して、各病院は単体での「競争」努力から相互協力関係の下での「協調」へと姿勢を変更する必要があります。病院の過分散の結果、各専門分野の医師も過分散常態となり、若手医師の大都会の大病院への偏在と相まって、医師の確保もままなりません。

それ故、当法人も藤沢湘南台病院と藤沢御所見病院との三病院協力体制「ブルーオーシャン湘南」を立ち上げたのでした。そして実際の協力行動を進めて来ました。地域医療連携室の相互研修や薬剤部の合同検討会等既に実績をあげています。5 月頃には 3 病院間の医師の顔合わせも予定されています。行く行くは医師の確保にも知恵を働かせたいものであります。

しかし更に長期的な視野では、本当の改革は病床数の削減を内包した病院の合理的な集約と、結果としての医師とその他医療従事者の集積による労働条件の改善まで行かなければならないと思います。それは制度を動かす大々的な法的措置を要するので簡単には行かないでしょうが、念頭にすべき構想ではあります。因みに、コロナの様なパンデミックで経験している病床不足の問題は、国公立病院や県等の持つ広大な敷地

に、応需で建造する大規模仮設病棟（院）が最も合理的だと思うので、病院の集約とは別の問題であろうと考えます。

第三に、「医師の働き方改革」と言う課題が待っています。この改革の眼目は、従来労働条件の保護条項が無かった医師に関して、時間外労働を一定範囲以下に削減し、医師の過労を防ぐ事です。勿論その更に先には、患者様の為の医療安全が目標である事は言うまでもありません。コロナ問題で棚上げ状態でしたが、2024 年 4 月から実施される上限設定や、連続勤務時間の制限が既に決まっています。特に常態化している当直明けの日中フル勤務などと言うのは本当に辛いものです。どんな勤務形態に変更すべきか、当院では目下策定中ですが、一般的には地域の皆様にはこれまでとは異なる医師の勤務形態に慣れて頂かなくてはならなくなるでしょう。

例えば今までいつも居る筈の医師が、新しい条件設定を守って当直明けでオフに入るとか、主治医制度についても、複数（チーム）主治医制とでも言うべき態勢とかに、慣れて頂く必要があると私は考えています。

当院の動き

その他当院に限って申し上げますと、診療内容の見直しも重要です。時代と共に各部門の位置付けや評価も変わりますので、常に診療部門の最適組み合わせを検討する事が必要です。

一方、拡充すべき分野もあります。中島医師の着任を得て業績を伸ばしている在宅診療や、需要増大の訪問看護部門などは今後拡張したい領域です。地域の認知症対応も必要な領域でしょう。数年前、院内認知症対応のプロジェクトを一步進めました。スペースさえあれば、近隣の認知高齢者の皆様に集まって頂く施設も考えたい処です。それから 3 階の回復期リハ病棟には 4 月に医師 1 名が着任します。2021 年度を整形外科のサポートを受けながら馬淵医師 1 名態勢で維持して来ましたが、2 名態勢となります。2022 事業年度の活動計画を立案中ですので、その全貌を 4 月にはお話しできと思います。ご支援、宜しく願い申し上げます。



お薬のはなし

～薬の飲み方～

シーサイド薬局 HATORI 店
松波 徹

市販の薬も病院の処方薬も、飲むときに必要な「水」。私たちに一番身近な錠剤や粉末の西洋薬の基本的な飲み方は、37℃くらい温度のぬるま湯が人間の体温に近いので、無理なく消化・吸収されます。冷水でも問題はありませんが、胃の中で溶けて小腸で吸収されるのに多少時間がかかってしまうことがあるのです。薬をしっかり溶かして吸収させるためには、コップ一杯約 200cc の水を飲むことを心がけていきましょう。

反対に水を飲まないのは禁物です。時々、錠剤をそのまま無理に飲み込んでしまう人がいますが、喉に引っかかると薬の成分によって粘膜を傷つけ、ひどい場合は潰瘍になることがあります。水なしで無理やり薬を飲むようなことは、十分な効果を得られないばかりか別のトラブルになってしまう恐れがありますので注意しましょう。

ところで同じ水でも、薬の服用には避けた方がいい水の種類があります。硬水にはカルシウムとマグネシウムが多く含まれています。薬の成分にはカルシウムとくっつきやすいものがあるので、薬の働きを低下させてしまいます。ですから硬水のミネラルウォーターは利用せず、軟水の水で飲むようにしましょう。炭酸水も、胃薬を中和させてしまったり鎮痛剤の効果を弱めてしまったりといった性質があるので注意が必要です。また、薬が苦いからとか、たまたま手元にあったからといった理由で、水以外の清涼飲料水やお茶などを用いて薬を飲む人がいます。コーヒーや紅茶、日本茶などにはカフェインが含まれています。

たとえば総合感冒薬の中には解熱や鎮痛のためにカフェインが入っている製品があり、コーヒーなどで飲むとカフェインを過剰に摂ってしまうことになります。薬の効果を低下させたり睡眠に支障をきたしたりすることが考えられ、特に高齢者は代謝が落ちていて、薬の成分が長く血液中に留まる傾向があるので注意が必要です。牛乳もアルカリ性でカルシウムが多く入っているので、薬の服用には向いていません。薬のカプセルやコーティングには胃の酸では溶けず、小腸のアルカリ性寄りの pH 値で溶けるものがあります。牛乳で飲むと小腸に届く前に胃で溶けてしまうため、薬の効果がなくなってしまいます。



病気のときにお世話になるのが薬。薬を飲むのに適した水の摂り方がありますので、ぜひとも注意して知っておいてください。

シーサイド薬局 HATORI 店

住 所：藤沢市羽鳥 1 丁目 3-12
電 話：0466-30-0398
営業時間：(月・木・金)
9:00 ～ 18:30
(火)
9:00 ～ 19:00
(水・土)
9:00 ～ 18:00
定 休 日：日曜日、祝祭日



解剖学の実習が始まった。これは医学生たる者、忘れ得ぬものである。先ず解剖実習の形態は、4人一組で一体を頂き、半年かけて表面の皮膚から皮下、筋肉と、一つ一つ名前のあるものを逐一剖出し、確認するのである。ラテン語の名前とドイツ語・英語を参照しつつ、確認・記憶するが、それだけではなく、一つ一つの筋肉にはそのどの部位から何という神経が入ってくるのか、随伴する血管は何と言うのかなど、人体の構造を丹念に辿って行く。ご遺体は、結核で亡くなられたご婦人であったり、脳出血での男性であったり、色々であった。いずれも動脈に赤い色素を注入したあと、本館の床下空間で大きな壺にてホルマリン浸けで一年位保存したものであると聞いた。初めての实習の日、解剖台にビニールにくるまれて整然と並んだ25体程のご遺体に、肅然余りあるものを感じた。一体に4人の配属で勉強しながら半年を過ごすので、4人の絆は自ずと強くなった。五十音で区切られた4人であったので、皆頭文字は“O”であった。一人は後年帝京大学医学部長になったA.O.君、もう一人は北里大学小児外科でならしたH.O.君、もう一人が湘南中央病院の外科でならした前述の大淵辰雄君、そして残る一人が私であった。解剖台(机)をドイツ語でTischと言い、グループはGruppeなので、この集団をTischgruppeと呼ぶ。和製ドイツ語かも知れない。どこの医学部でも強い絆の一つであるはずだ。

解剖学の試験の一部に、人間の体から切り出した組織を染めたプレパラートを顕微鏡で読んでその構成と意義を述べる口頭試問があった。私は「交感神経節」に当たり、苦戦したがパスした。解剖学は暗記する他は学習方法が無かったので、膨大な知識に途中で辟易し、こんな筋肉を一つ一つ覚えて何になるのだと投げやりになる事もあった。だかしかし、後年胸部外科医になり、胸郭を開いたり形成したりする際、一つ一つの筋肉のどこを切離すれば再縫合後血流が保てるか、支配神経の機能を保てるかなど、本当に必要な知識である事を再確認せざるを得なかった。

臨床医学の講義は2年生になって始まった。外科学の講義が一番面白かったのは言うまでもない。けれども、内科学の疾患論も中々興味深かった。クラスメートの中でアメリカの臨床医学に特に興味をもつものが6～7人毎週集まってマサチューセッツ総合病院(M.G.H.)の臨床カンファレンス記録を基に演習をやった。英語の全文を一人だけ結論まで読んでくるのだが他の者は前提情報までとし、考察を述べ合う。詰まりカンファレンスを地で行く趣向であった。最後にその一人が結論を公表する。そして診断に至る考察をMGHの医師たちのそれと照合して感心したり批判し

たりした。実力養成に大きく役立ったと思う。

その頃大阪の母が手紙で、郷里の町天下茶屋の知人K氏が、赤坂のクラブの支配人に成られたそうなので訪ねて見なさいと言って来た。名前は「聚楽」だった様な気がするものの定かではないが、当時の有名店であった。そのオフィスにK氏を訪ねてみると歓迎して下さったものの、私がまだ学生服を着ていたので自分のジャケットに着せ替え、客席に案内、テーブルに座らせてカクテルを飲ませて頂いた。バー以外の大人の社交場を始めて経験した。母の手紙と書いたので思い出すのだが、母は一度も私の下宿に現れた事が無かったなあ。時々小包みを送ってくれたけれど。仕送りは有難かったが、アルバイトに家庭教師をしたり、理容師学校の解剖学の講義に5時間、とかで最低限の収入は得ていた。

大学の本郷キャンパスの学園祭は五月祭と言う。この年、我々は薬害をテーマに出し物を考えた。その時、高橋暁正(字が間違っていない事を祈る)先生を知った。市販のビタミン剤(今もある)が百害あって一利も無い事を公然と発信していたので医学部内部での出世叶わず「万年講師」と呼ばれて居た。その上の助教授には昇進できない人と言う意味であるが、我々は先生の価値を重々認識し尊敬していた。とまれ、この先生とは数年後にある接点ができるのだが、その経緯は後日お話ししよう。

続く…

修 理

例年、お正月を控え、年末は家の内外のメンテナンスに追われます。この節目に年来のあちこちの不具合を一新し、晴れ晴れとした気分で新しい年を迎えたい。しかしメンテナンスの世界も今や様変わりしました。

永年使っていたプリンターが不具合になったので、修理したいと思って電機店に行って相談したら、修理すると新品を買うより倍も値段がかかると言われました。前にも、たしか炊飯器かなにかで同じ目に遭ったことがあります。現代は修理の時代ではなく買い換えの時代なのでしょう。

思えば私の生きて来たのは修理全盛の時代でした。まず毎日履く下駄の鼻緒のすげ替えです。子供の使う下駄は鼻緒が良く切れました。それだけ使い方が乱暴だったのでしょう。小学校高学年にもなると自分の下駄の鼻緒のすげ替えくらいは自分でやるのが常識でした。まず古い鼻緒を裁ち物鉋でバサッと切り取って、下駄の台から外します。履物屋の店先にぶらさがっている新品の鼻緒から、好みの色の物を選んで買って来ます。どの家にも「千枚通し」が常備されていて、それで鼻緒の端の三本の麻紐を下駄の三つの目に押し込みます。その麻紐のそれぞれを、下駄の裏で結び合わせたり大きな結び目を作ったりして留めます。鼻緒は、片足だけ替えるというわけにもいかなないので、二倍手間が掛かりました。せっかく鼻緒をすげ替えて、ほっとして駆けだしたとたん鼻緒の前部がスポッと抜ける失敗がよくありました。

話の道草

宮原 昭夫



自転車のパンク修理も、これはやや年長の、中学生くらいからの作業だったのでしょうか。当時は自転車のタイヤが粗悪な上に道路そのものが砂利が敷いてあれば上等、という時代でしたから、自転車のパンクがやたら多かった。いちいちその度に自転車を担いで自転車屋まで行くのは大変なので、勢い自分で修理するのが常道でした。まずバケツに水を汲み、タイヤからチューブを引き出して空気入れで膨らまし、少しずつバケツの水に潜らせて行くと、細かい泡が立ち上がってくるのが見つかります。そこがパンク箇所なので、その辺りの水気を入念に拭き取り、紙鏝で擦り、用意のゴム片をゴム糊で貼り付けて、修理完了。万端終了して、最後に空気入れでタイヤを膨らまし、一安心して自転車置き場に収め、さて翌日出掛けようとしたら、タイヤがぺちゃんこになっていた、なんてこともよくあって、それはパンクの箇所が二個以上あるのを見落としていたのです。

これは、もしかしたら私だけの趣味かも知れませんが、傘直しというメンテナンスもありました。当時は勿論使い捨てのビニール傘なんて存在せず、今時のように色とりどりのバラエティもなかったが、さすがに純和製の番傘とか蛇の目などは普通の民家では使われていませんでした。傘といえば黒い蝙蝠傘でした。

風の強い日に傘を差してオチョコになると、骨が折れます。当時は蝙蝠傘は結構貴重品で、折れたら傘修理店に持って行ったものです。その時が私の出番で、ちょっと待てと家族を制し、おもむろにペンチを取り出します。ギプスのような小金具を骨折した箇所当てがってペンチで締め上げるのですが、これがなかなかコツが要りました。でも首尾良く成功すると、家族の賞賛の眼を受けるのがこよいい快感でした。我が家の傘を修理し尽くすと、私は友達の家に進出しました。修理し終えて、意気揚々として帰宅したら、次の日友達がやって来て母親からのお礼だといってケーキを渡してくれましたが、――傘の使い心地はどうだ――という私の質問に、友は言いにくそうに――差そうと思って開いたら、とたんに折れてしまった――と答えました。なんとも気まずい瞬間でした。これに懲りて、私の修理癖も下火になりました。

昨今は前述のように、修理よりも買い換えの時代になってしまいましたが、これだけは買い換えの利かない世界があります。私も老化し、あちこち故障が起き始めています。お世話になっている病院は、いわば人間の修理工場とも言えますね。今は医学も進み、臓器移植という、いわば部品交換も可能なようですが、でも、全身がいくらボロボロになっても、こればかりは新品と全取っ替えというわけにはいきません。

病院外来ギャラリー紹介

病院ギャラリーは、1985年、病院創立30周年を記念に病棟の廊下（旧病院西棟3階から東病棟への上空通路）の空間を利用して開設しました。2ヶ月に1回の掛け替えでちょうど36年（216回）となりました。市内にお住まいの画家の島谷晃氏、斎藤耕平氏、田澤茂氏にご協力いただき藤沢市内外の作家を中心に、国内各地、遠くは海外の作家を紹介していただき展示してきました。

新病院開院（2006年）からは、「外来ギャラリー」として、近隣で活躍されている作家の方や芸術サークルの作品（絵画・写真・造形等）を外来客の待合の壁に展示するようになり、地域の作家同士の交流の場にもなっています。

最近では、展示いただいた作家さんより紹介のバトンを繋いでいただいたり、ご来院患者さんやご家族の方で、描きためた絵を展示いただいたりしております。少しでも患者さんの気持ちを和らげていただけたらという、作家の方々のボランティアな気持ちに支えられての活動です。これからも多くの方のご協力を得ながら続けていきたいと思っております。



病院外来ギャラリー展示募集

病院外来ギャラリー展示作品を随時募集しています

<応募条件>

- ・当院の外来ギャラリー展示の趣旨に沿うもの
※事前に作品をいくつか拝見させていただきます
※作品によってはお断りすることもありますのでご了承ください
- ・湘南エリアに「ゆかりのある作家」（プロ・アマ問いません）
- ・絵画又は写真などで、展示作品20点以上（8m・8m・5mの3エリア）
- ・展示期間（2か月～最大3か月）
- ・展示は双方無償でお願いしております

<連絡先>

わかば編集委員会 外来ギャラリー担当 E-Mail wakaba@swg.or.jp
メールでお願いします。QRコードを読み取るか、直接アドレスを入力し、件名に「外来ギャラリー展示の件」と記載いただきご連絡ください



↑ QRコード ↑



わかば編集だより

あけましておめでとうございます

わかば編集委員会です。いつも健康ニュース「わかば」をお読みいただきありがとうございます。

今号より、発行回数の変更（年4回季節発行）に伴い、紙面のデザインや構成を一新しました。また、新たな編集委員も加わり、更に地域に密着した広報紙をお届けいたします。

今後ともよろしくお願いいたします。



小川英幸（内科医師） 白土佳男（湘南わかば苑副施設長） 吳鐵仁（外科医師） 鈴木研（人事・広報課）
柳貴美（透析センター看護師） 前山美子（看護部秘書室） 新堀かおり（地域医療連携室・社会福祉士）

発熱外来のご案内 予約制

発熱、咳、倦怠感などの症状がある患者さんは、屋外に設置しました「発熱外来」で診察を行います。

予約・お問い合わせ→ ☎ 0570-003252

詳細は、院内の掲示とHPでご確認ください→

<https://www.swg.or.jp/>



◆ 1月の外来診療担当表 ◆

一般外来

2022 1.1 現在

専門外来

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内分泌 (糖尿病)	午前 午後		酒井 (午前) 予約		酒井 (午前) 予約		酒井 (午前) 予約 (第3,4)
呼吸器 内科	午前	福崎 予約					
肛門 外科	午後	松崎					
胸部 化学療法 外来	午前		長田 予約				
皮膚科	午後					輪番制	
心療 内科	午前				三吉 予約		
神 経 内 科	午前 午後					松川 予約	
リハ ビリ科	午後	○ 予約					
リウマ チ科	午前						永渕(泰) 予約
緩和 ケア 内科	午前 午後	福崎 予約 (午前)		片町 予約 (午前)		片町 予約 (午後)	
禁 煙 外 来	午後	長田 予約	長田 予約		長田 予約	長田 予約	長田 予約 (応相談) (午前)

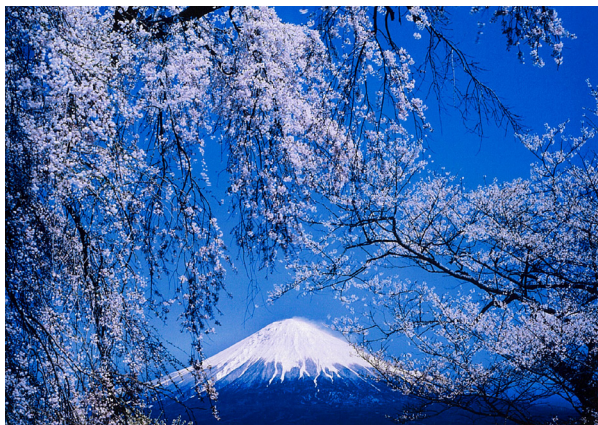
外来診療 午前 8:30 ~ 11:30 ※再診受付 午前 8:00 ~
受付時間 午後 2:30 ~ 4:30

休 診 水曜午後、土曜午後、日曜日・祝日

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内 科	午前	村川 一般	岡 一般 神経内科	新城 一般	岡 一般 神経内科	村川 一般	岡 第1・3・5 新城 第2・4
		岡 一般 神経内科	小川 一般 循環器	岡田 一般 循環器	永渕 一般	新城 一般	永渕 第1・3・5 岡田 第2・4
		小川 一般 循環器	-	-	相澤 (予約)	相澤 (予約)	相澤 第2 (予約)
	午後	奥脇 ^(裕) 一般 消化器	永渕 一般	-	新城 一般	小川 一般 循環器	-
		岡田 一般 循環器	-	-	-	相澤 第1・3 (予約)	-
外 科	午前	呉	池田 ^(清)	呉	(輪番制)	松崎	松崎
	午後	松崎 一般・肛門	-	-	呉	池田 ^(清)	
整形外科	午前	横山		横山			
		池田 ^(全) 一部予約	庭山	池田 ^(全) 一部予約	芹ヶ野	中島 ^(大)	芹ヶ野
		今井	今井	山本	今井	宇都	宇都
	午後	芹ヶ野	庭山	-	池田 ^(全) 一部予約	大村	-
		-	宇都	-	横山	-	-
泌尿器科	午前	多田	多田	多田	多田	多田	多田 ^(二宮)
	午後	-	多田	-	-	-	-
夕方診療	午後	-	呉 4:30～7:00	-	-	-	-

※医師の都合等により休診・代診となる場合がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

写真集団「月見草」富士山写真展



霊峰「富士」神秘的な美しさに、未了され、40年～50年の写真歴の会員が相対峙してシャッターを押し続けています。『その雲 彩 光の変化』を求め色々な撮影ポイントに出かけ、より良い作品作りに励んでいます。ご高覧いただき心癒されていただきますと幸いです。

連絡先：小泉 正夫 電話 0466-24-0336

湘南中央病院 今月の外来ギャラリー

展示期間 (2022年1月～3月)

編集後記

あけましておめでとうございます。



はじめまして、地域医療連携室／患者・家族相談室の新堀かおりと申します。よろしくお願い致します。昨年の11月に「わかば編集委員会」に入って、初めての編集後記で緊張しております。

さあ、何を書こうかと思っていたら、丁度、今朝起こりました家庭での愚痴をこぼさせてください。私は、三人姉妹の母なのですが、三女が年長さんでサンタクロースからもらうプレゼントを今朝急に変更してしまったのです。すでにネットにて購入し本日届くことになっていた私にとっては事件です。クリスマスまであと3日なので、なんとか説得しようとしたのですが、頑固さんで無理でした。三女からは、「じゃあふたつもらうことにする」と返事があり、焦っております。もう一つ買わないといけなのか、迷うところです。私がもう一つのプレゼントを購入するか、三女の説得に成功するか、まだいつかお話しさせて下さい。

(社会福祉士 新堀 かおり)

